

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

滞留水の貯蔵状況(4月22日時点)

- ①建屋内滞留水水位及び貯蔵量
 - ・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足
 - ・処理装置(セシウム吸着装置)は運転中
- ②廃棄物発生量
 - ・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし
- ③処理水タンク貯蔵量
 - ・淡水化装置による処理により、淡水受タンク及び濃縮塩水タンク貯蔵量は変動あり
 - ・蒸発濃縮装置は全台停止中
- ④5, 6号機滞留水貯蔵量
 - ・構内散水によりF・Hエリア等タンク貯蔵量は変動あり

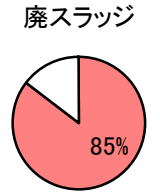
①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約13,900m ³	OP.2.986
2号機	約21,200m ³	OP.2.996
3号機	約23,400m ³	OP.3.002
4号機	約17,600m ³	OP.2.933
合計	約76,100m ³	

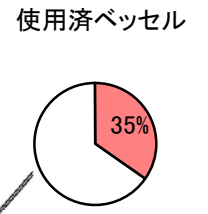
貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	※9約15,770m ³	OP.4.401
高温焼却炉建屋	約2,770m ³	OP.1.716
合計	約18,540m ³	

(合計):+3000[m³/4週] (合計):+400[m³/週] (合計):+550[m³/4週] (合計):-600[m³/週]

②廃棄物発生量



保管量:597/700[m³]※3



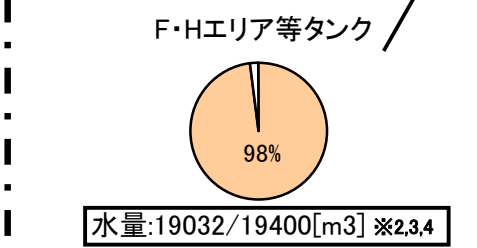
保管量:870/2514体 ※1

- 中低レベル(既設)
- 中低レベル(追設予定)
- 高レベル(既設)
- 高レベル(追設予定)
- 移送ホース布設ルート
- 淡水注水ルート

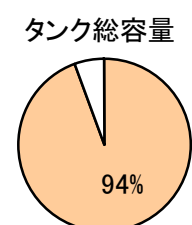
水量:約553318[m³]

+15784[m³/4週] ※7
+3232[m³/週]

建屋内貯蔵量+処理水タンク貯蔵量
(①+③)



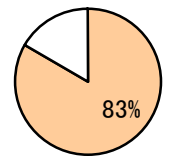
④5, 6号機滞留水貯蔵量



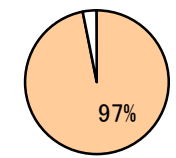
貯蔵量合計(③+④)

- ※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセルを含む
- ※2 装置稼動中につき水位が静定しないため参考扱い
- ※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記)
- ※4 Hエリアのタンク(約3,000m³分)を5,6号機滞留水に使用
- ※5 多核種除去設備(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵
- ※6 地下貯水槽を含まない。ろ過水タンクの貯蔵容量(4,600m³)を含む
- ※7 ウェルポイント(約370m³/週)、共用プールから高温焼却炉建屋(約20m³/週)、4000tノッチタンクから2,3号T/B(約360m³/週)の移送量約750m³/週を含む
- ※8 放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む
- ※9 焼却工作建屋地下1階の滞留水(約200m³)を含む

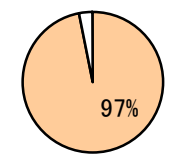
③-a 淡水受タンク



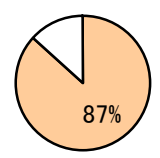
③-b 濃縮廃液貯槽



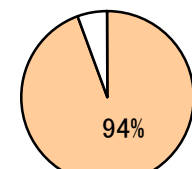
③-c 濃縮塩水受タンク



③-d 処理水貯槽 (多核種除去設備処理済水)



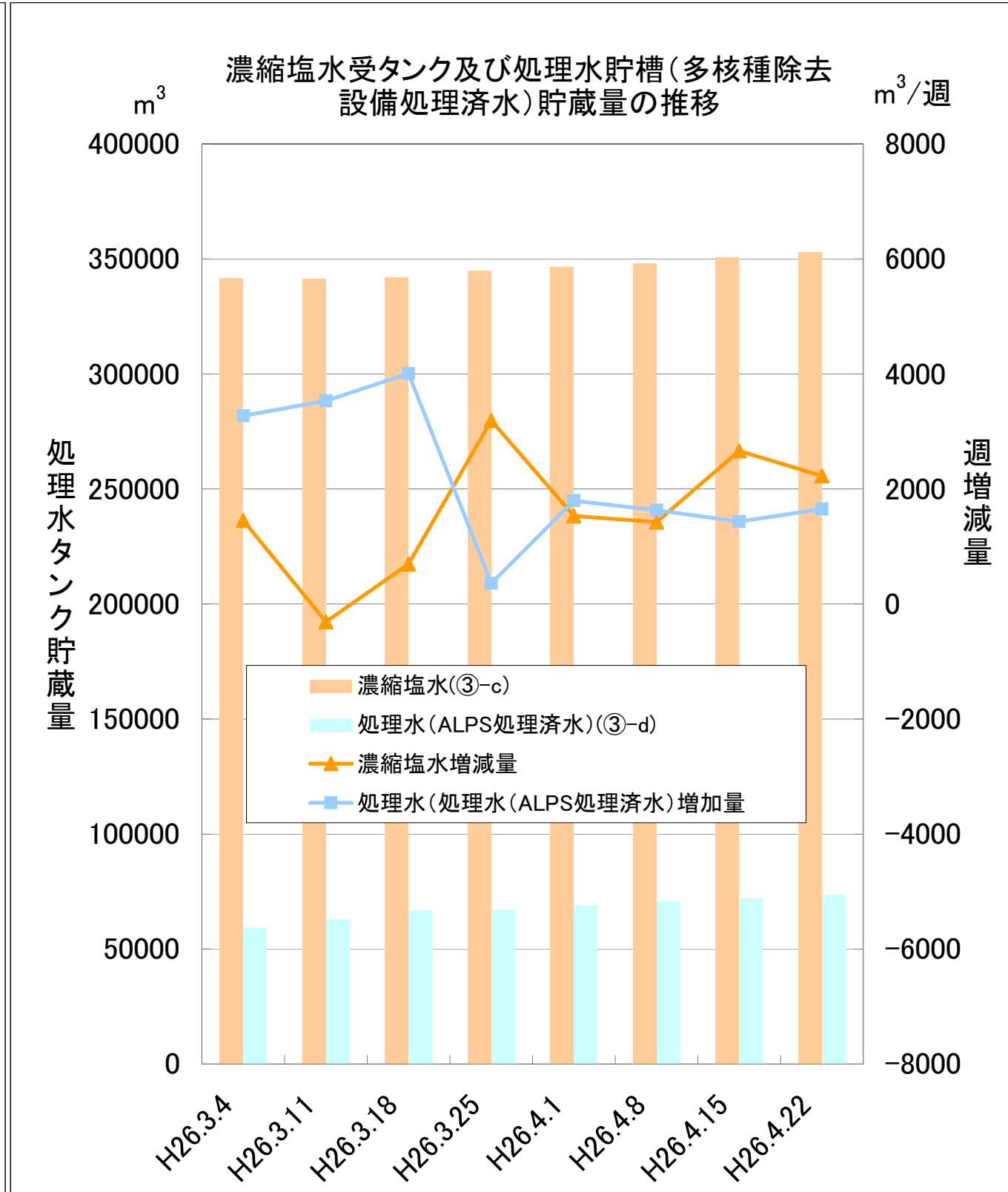
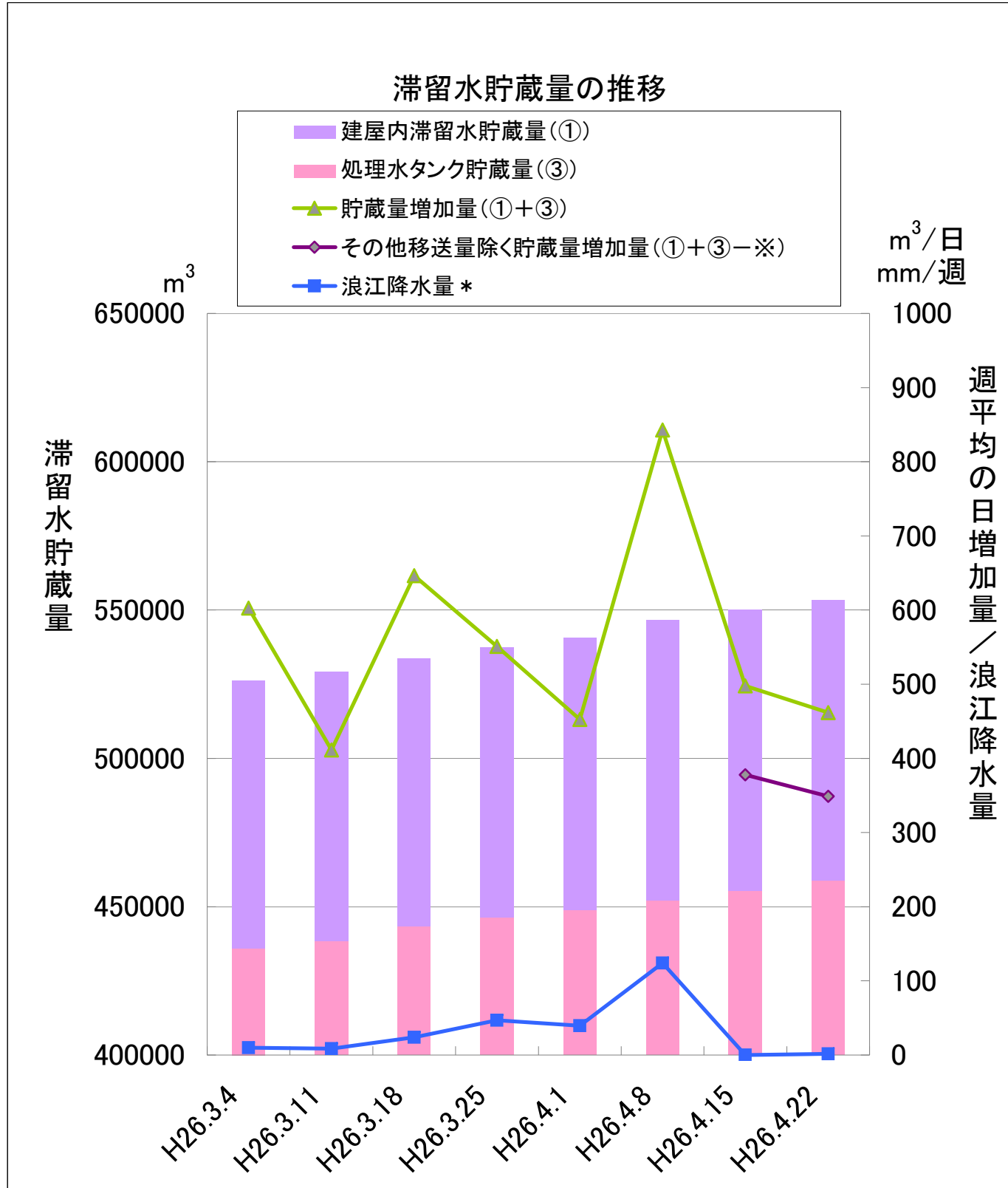
処理水タンク総容量



③処理水タンク貯蔵量

- タンク堰内水の一時的貯留量
- ・ノッチタンク群 約3600(-100[m³/週])/約4000[m³]
 - ・地下貯水槽 iv 約1500(±0[m³/週])/約4000[m³]
 - ・地下貯水槽 vii 約2100(±0[m³/週])/約4000[m³]

滞留水の貯蔵状況の推移



* 気象庁公表データより

- ①: 建屋内滞留水貯蔵量(1~4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋)
- ③: 処理水タンク貯蔵量([③-a淡水受タンク]+[③-b濃縮廃液貯槽]+[③-c濃縮塩水受タンク]+[③-d処理水貯槽])
- ※: ウェルポイント、共用プールから高温焼却炉建屋、サイトバンカからプロセス主建屋、4000tノッチタンクから2,3号T/Bの移送量の合計